

経営比較分析表（令和3年度決算）

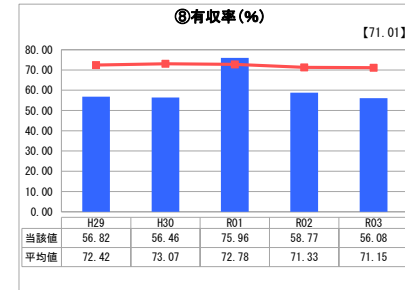
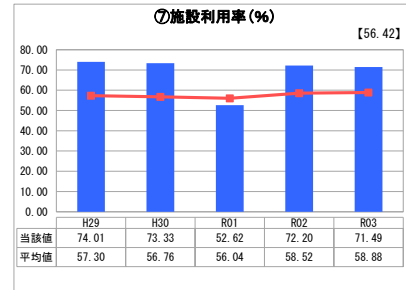
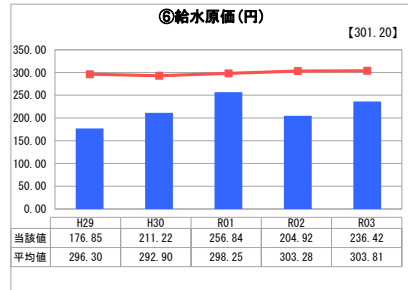
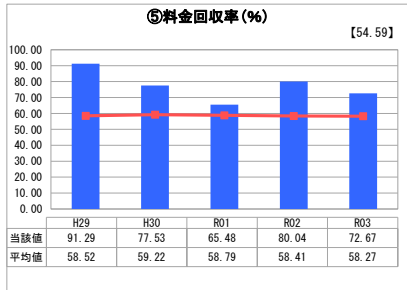
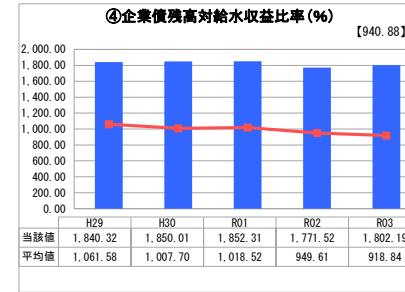
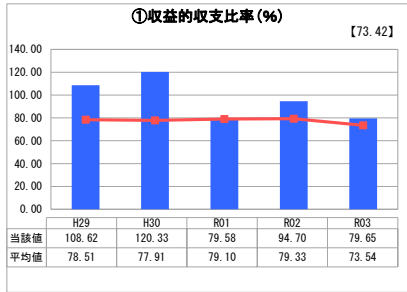
高知県 本山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	該当数値なし	85.34	2,680	

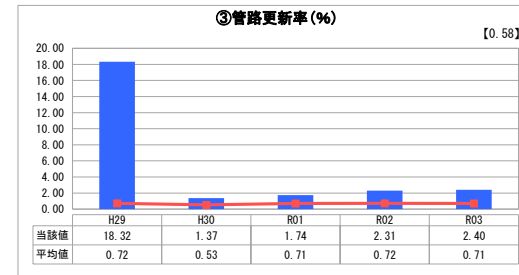
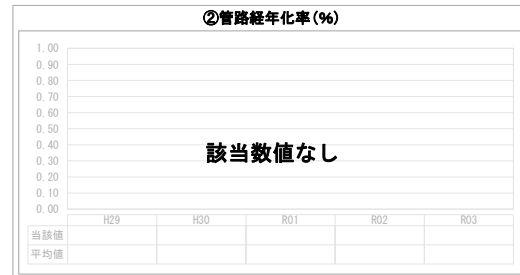
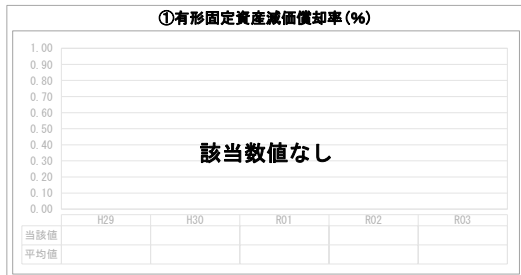
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,340	134.22	24.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,811	10.95	256.71

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率については、平成26年度からの水道料金改定に伴い、改善されてきています。また、平成27年度から一般会計からの繰入金もなく、概ね健全であるといえます。

⑤料金回収率については、過去の大型事業による事業債償還額等の増加に伴う給水原価の上昇を受け、平成29年以降、低下傾向です。効率性においては、新施設への切替と老朽管の布設を進めています。依然として布設が進んでいない地域もあり、まだまだ漏水が多いのが現状です。今後、老朽管の布設工事や漏水調査及び漏水修繕を継続的に実施し、有収率の向上を図っていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

平成9年度以降に順次更新し、平成24年度からの簡易水道の施設統合では、耐震管を採用し、導・送・配水管を10km強更新しています。平成30年度からは、老朽化した配水管・電気設備等の更新を実施していますが、未更新の地域もあり、順次計画的に更新していく必要があります。

また、災害に備え、管路情報のデータベース化を行い、現状を把握するとともに、引き続き老朽管布設工事の更新実績に基づいた管路情報の修正と、計画的な管路更新を検討していく必要があります。

全体総括

平成26年度から平成28年度にかけて、水道料金の改定を行い、収益的収支比率・回収率は大きく改善されてきましたが、今後、人口増加は見込まれず、給水収益の増加が期待できないと考えられます。また、過去の大型事業による事業債の償還が本格的に始まり、経営への影響が出始めています。安定した事業運営を維持していく為、公営企業会計の法適用化を実施し、長期的な経営目標を持ち、施設規模の縮小等経費削減に向けた取組や管路や施設の更新需要等の将来試算と経営収支の見直しを踏まえ、適正な料金水準の設定を行い、サービス向上に努めていきます。